

—使徒言行録2章・1-11、ローマ8章8-17、ヨハネ14章・15-16、23b-26—

（そのとき、イエスは弟子たちに言われた。）「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。わたしを愛する人は、わたしの言葉を守る。わたしの父はその人を愛され、父とわたしとはその人のところに行き、一緒に住む。わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いている言葉はわたしのものではなく、わたしをお遣わしになった父のものである。わたしは、あなたがたといたときに、これらのことを話した。しかし、弁護者、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊が、あなたがたにすべてのことを教え、わたしが話したことをことごとく思い起こさせてください。」—ヨハネ14章—

## 聖霊による多様性の一致

今日、聖霊降臨の主日を、私たちは『教会の誕生の日』として祝います。

教会とは、“ご聖体の周りに感謝するために集う信者の群れ”とカトリック教会は定義します。これを可能にしたのが聖霊であり、主が、『私が去って逝くのは、あなたがたのためになる』と言われた意味です。

私たちが過去の命と決別し、別の命に変容され、神の愛による新しい生き方に変えられるのは、聖霊に預かり、聖霊と交わらなければ実現しないことです。聖霊は、この世のことに心を奪われることを、天上のものにのみ、目を注ぐ姿勢に変え、気の弱い臆病な心をはっきりとした勇敢な心に変え、ユダヤ人であっても、ギリシャ人であっても、奴隷であっても、自由人であっても、全ての人を一つに集める神の力です。

ここで起こっている事、それは、人々がその多様性を維持したまま、みんなに分かるように一つのこと、キリストの福音が語られているという現実です。それはかつて、「バベルの塔」で起こった出来事の逆です。

神が民を分裂させ、塔建設を阻止したのは、世界の支配者である神を否定した民が、自分たちが主人公になろうとした生き方をやめさせるためでした。これは、現代世界にも言えることなのです。神から主人公を奪い取る全体主義の国家が、いかに人間の尊厳をないがしろにするか。それは一人の皇帝のもとに、一つの思想のもとに、みんなを一つにしようと強制する時に起こる民衆の苦しみです。社会はいつもこういう危険にさらされているのです。神はそれとどめるのです。「さあ行っ

て、彼らの言葉を混乱させ、互いの話し言葉が通じないようにしよう」と。

一つの言葉で、すなわち、一つの体制で強制が行われるという事ではなく、私たちが求めるのは、自由な聖霊が、人々を自由なまま、主イエスの福音によって結びつけていく一致です。無理やり自分の正しさを相手にぶつけて、正そう、作り変えようとしても人の心を変えることはできません。聖霊が働かれるとき、私たちを変えてください。私たちが互いのうちにおられる聖霊と関わるために、その聖霊に信頼して自分の思いに死んで待つ心が大切です。私を変えられていくならば私の周りも変えられていくことを信じて。

2022年6月5日

主任司祭 昌川 信雄

